

活動分野	地域部会（南総部会）		
タイトル	春の自然・地層観察会		
実施日時	平成30年4月14日（土）10時～14時		
実施場所	清和県民の森 セラピーコース		
受講者	14名	FIC会員	3名

活動の内容

副題：遊歩道を散策し、地層を見て、房総半島の成り立ちを学習する。

今回の観察会の目的は：清和県民の森の新緑のセラピーコースコースを植物観察しながら歩き、500万年前深海だった時この地に堆積した地層「安房層群清澄層」が地上に露出している場所を見学する事です。

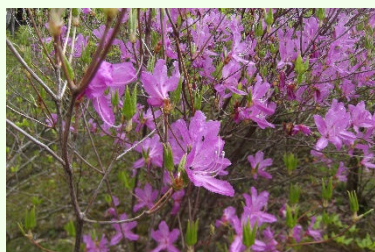
開会の挨拶の後、配布した資料を基に房総半島の成り立ちと、我々が立っているこの地（500年前に堆積した清澄層）について説明し、特に清澄層に現れている鍵層と云われる火山灰層（KY6, KY7）の意味について説明しました。

火山灰の鍵層はチバニアの年代特定に活用された事も伝えました。

木のふるさと館（管理事務所）を出発し、セラピーコースの入り口では満開のミツバツツジが出迎えてくれました。ミツバツツジは君津市のシンボルツリーとして県民の森にはたくさん植林されたので、セラピーコース全行程で咲き誇っていました。

午前中は山道を歩き、ヒメウツギ、ミヤマシキミ、ネジキ、リョウブ、サカキ、ヒサカキ他の植物を観察し、展望台では新緑の山並を展望しました。

今回は花の写真を資料として配ったので、皆さん写真を手に観察していました。



キヨスミミツバツツジ



オソベを数えて下さい



なんの花ですか

ロッジ村のベンチで昼食を取り、遊歩道をヤマルリソウやタチツボスミシなど見ながら歩き、深海に堆積した砂泥互層（タービタイト）の露呈している崖と、清澄層のKY6, KY7 鍵層を観察観察しました。



500万年前に起こった事柄を現実に見ることが出来る「地層観察」のロマンを共有しました。

行程の最後に断層が顕著に表れている場所で、活断層と地震エネルギーの恐ろしさを実感して観察会を終わりました。